

江成常夫写真展

Enari Tsuneo Exhibition
Japan and Its Forgotten War: Showa

昭和史のかたち

2011 7/23(土) - 9/25(日) 東京都写真美術館 2階展示室

【開館時間】 10:00 - 18:00 (木・金は20:00まで。入館は閉館の30分前まで) ※最新の開館情報はお問い合わせください。【休館日】 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日は休館) 【観覧料】 一般700 (500) 円 / 学生600 (400) 円 / 中高生、65歳以上500 (400) 円 () 内は20名以上の団体料金。東京都写真美術館友の会会員、小学生以下及び障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料。第3水曜日は65歳以上無料。【主催】 東京都 東京都写真美術館 / 朝日新聞社 【協賛】 株式会社ニコン / 株式会社ニコンイメージングジャパン / 富士フイルム株式会社 / 株式会社東京アド / 株式会社トーション / 光村印刷株式会社 【協力】 株式会社写真弘社 / 株式会社フレイムマン / 株式会社カシマ

www.syabi.com

2011(平成23)年は、太平洋戦争開始から70年、またその発端ともいえる満州事変の勃発からは80年という節目の年にあたります。現代の日本に生きる私たちの歴史を改めて振り返り、見つめ直すよい機会と言えるのではないのでしょうか。

東京都写真美術館では、日本を代表する写真家であり、40年近くにわたり、昭和の戦争とその負の遺産を写真で表現しつづけてきた江成常夫の集大成となる写真展「昭和史のかたち」を開催します。江成は毎日新聞東京本社の写真記者を経て、1974(昭和49)年よりフリーランスの写真家として活動を開始しました。その後は一貫して、15年に及んだ「アジア太平洋戦争」のもとで、死と涙を強いられてきた内外の、声を持たない人たちの声を写真で代弁することで、戦後日本人の現代史に対する精神性を問い続けています。

本展覧会は、代表作である「偽満洲国」「シャオハイの満洲」「鬼哭の島」に、未発表最新作を含む「ヒロシマ」「ナガサキ」を加えた112点で構成し、現代日本を生きる私たちの歴史を改めて顧みようとする試みです。



江成常夫

えなり・つねお(1936-) ●神奈川県相模原市に生まれる。1962年、東京経済大学経済学部を卒業、毎日新聞東京本社に入社。74年、毎日新聞社を退社後、フリーランスの写真家となる。77年、『ニューヨークの百家族』で第27回日本写真協会新人賞受賞。その後、戦争に翻弄されながら、戦後日本が急激に変化するなかでその存在を忘れられてきた多くの日本人を取材。「昭和の15年戦争」をテーマにした作品を次々と発表する。81年、第6回木村伊兵衛写真賞。85年、第4回土門拳賞。95年、第37回毎日芸術賞。2002年、紫綬褒章など受賞多数。九州産業大学名誉教授。



「アリゾナ号」から浮かび上がる油の紋様 オアフ島、ハワイ 2005年5月



「満州事変」の布告文 吉林省歴史博物館、長春 1989年

■連続対談

江成常夫と語る〈昭和史のかたち〉 各回14:00 ~ 15:30

7/30(土) 森村泰昌(美術家) [会場] 1階アトリエ [定員] 70名

8/20(土) 梯久美子(ノンフィクション作家) [会場] 2階ラウンジ [定員] 50名

8/27(土) 澤地久枝(作家) [会場] 1階アトリエ [定員] 70名

対象●展覧会チケットをお持ちの方

受付●当日10:00より当館1階受付にて整理番号つき入場券を配布します。

開場●13:30一、整理番号順入場、自由席

■フロア・レクチャー

会期中の第2・4金曜日の14:00より担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケットの半券(当日有効)をお持ちの上、展示室前にお集まりください。

■本展覧会は下記に巡回します。

2012 1/27(金) - 2/13(月) 相模原市民ギャラリー

神奈川県相模原市中央区相模原一丁目1番3号

2012 3/18(日) - 4/22(日) 酒田市美術館

山形県酒田市飯森山三丁目17番95号

※本展覧会は下記番組でも紹介されます

番組名●ETV 特集 靈魂を撮る眼~写真家・江成常夫の戦跡巡礼~

内容●昭和の戦争を独自の切り口で映像化してきた江成常夫の仕事と思想を伝えるドキュメンタリー。

放映日●2011年8月21日(日) (予定) 午後10:00 ~ 午後11:29 NHK教育

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
(港北寿ガーデンプレイス内)
Tel.03-3280-0099(代)

www.syabi.com

●JR池袋駅東口12より徒歩約7分。東京メトロ日比谷線池袋駅より徒歩約10分。

●当館には専用の駐車場はございません。お車でのご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



段 淑清 母と妹と3人で他の家族と一緒に馬車で避難した。途中、東安省の密山県と宝清県の県境の道に置き去りにされ、そこで養父に拾われた。黒竜江省勃利県 1984年



「満洲国」時代の日本人開拓村 黒竜江省海蘭県 1991年



【左】寺前妙子(当時15歳) 爆心地から約550m。市内・中町の広島電話局で学徒動員中後継。2009年5月
【右】焼け焦げた「戦時石版」 広島原爆資料館所蔵。澤井美智子氏寄贈 2010年4月



【左】吉田勝二(当時13歳) 爆心地から約850m。市内・江里町で被爆。2008年7月
【右】被爆したマリアの木像 爆心地から約500m。同境した鎮上天主堂跡で奇跡的にみつかった。2004年7月